ワンスター

No. 21

平成30年10月16日（火）発行
大田区立松仙小学校
研究推進部　裏研究推進だより

（1）講師：渋谷一典先生の講評より

指導講評　　文部科学省初等中等教育局　教育課程課　教科調査官【渋谷　一典先生】

○指導案について
単元の３つの目標が（１）…知識・技能、（２）…思考力・判断力・表現力等、（３）…学びに向かう力、人間性等に対応した形で書かれており、子供にどのような資質、能力をつけていくかを明確にしている。よく考えられた指導案だと思った。

○子供の様子
子供たちは活動の進め方に慣れており、スムーズに授業が進行している事から、日々の積み重ねができていると感じた。また子供たちと一緒にめあてを決めて、児童主体で授業を行っていたが、これは総合に限らず他の教科でも求められてくる。

○視点について
「道具」「施設」「人」「体験」などの視点で分類していたが、それらを並列に同等のものとして項目するのではなく「施設」の中に「道具」「人」「体験」などが含まれているといったように、構造的に整理して分類しても良かったのではないか？その際「道具」ではなく「実際に使用していた本物の道具」などと、子供にとって身近に感じられるような呼び方にしていたら,受け止め方も変わってくるのではないか。また、ふるさと館の魅力を話し合った結果、それをどのように役立てていくのかを授業の中で示していくことも大切である。

○子供の思い
今日のためにたくさんの時間をかけて、子供人一人一人の思いを把握してきたと思うが、今日の授業の中で子供たちの思いが全て出し切れていたかどうかが問題になる。ただ、意見としては出されていないが、子供の振り返りに海苔の作り方について書かれていたように、今日の授業の中で子供たちに様々な思いが生まれてきているので、それを次につなげていってほしい。

（2）提案授業協議会より

＜協議会にて　成果＆課題のまとめ＞

○主体的な学び
成果・パンフレットなどの資料を活用することで見学してきた事を思い起こし、意欲的に話し合いをすることができていた。
・自分の体験と照らし合わせて、つぶやきながら他の児童の話を聞いていた。
・子どもたちは、具体的に学習の見通しをもつことができていた。

○発問や受け答えについて
成果・問いかけのバリエーションが多かった。
・先生が様々な子どもの反応を受け止め意図的に指名するなどして、丁寧に対応していた。
課題・教師と子どもの一問一答のやり取りが多かったのではないか？
・「～がおもしろかった」の意見に「どこがおもしろかった？」などの内容を掘り下げる問い返しがあると良かったのではないか？

○対話的な学びについて
成果・隣同士の対話が生きて、話し合いが活発に行われていた。
課題・協働するためには、隣同士の話し合いが有効だったか？

○視点の分類について
成果・分類できないもの（キャラクター）についてもとりあげみんなで考えながら、一人一人の意見を大切にしていた。
・それぞれの児童の思いを把握し、細かく整理して、分類の計画を立てていた。
課題・視点を明らかにするタイミングはあれでよかったか？（初めに言う or 最後まで言わない。）
・はっきりと分類できないこともあったので、無理に分類せず重複する部分があってもよかったのではないか？

○めあてについて
課題・めあての出し方はよかったか？（到達目標と達成目標）
・「話し合う」ではなく「出し合う」ではなかったか？
・意見を出し合うことはできていたが、話し合いまでは至らなかったのではないか？
・活動のゴールをどのように設定すべきか？

○その他
成果・板書が上手くまとまっていた。
課題・「もの」への興味をもつ児童が多かったが、それを「人」との関わりへに興味へつなげていけるようにしていきたい。